

1 日 時

平成 24 年 8 月 27 日（月） 15:00～16:40

2 場 所

総務省統計局 6 階特別会議室

3 出席者

委 員：浅見泰司座長、石坂公一委員（欠席）、竹内一雅委員、松本暢子委員、
山田育穂委員

オブザーバー：河村友紀子（東京都総務局統計部人口統計課長代理出席）、藤川眞行（国土交通
省総合政策局情報政策本部建設統計室長）、西川智（同土地・建設産業局土地市
場課長）、首藤祐司（同住宅局住宅政策課長）

総 務 省：須江統計調査部長、水上調査企画課長、米澤地理情報室長、岩佐国勢統計課長、
村田調査官

（独）統計センター：小室製表部管理企画課長

4 議 事

（1）本調査の実施計画案について

（2）集計事項について

（3）その他

5 議事要旨

○資料に基づき事務局から説明を行い、議事ごとに意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

（1）本調査の実施計画案について

・住生活総合調査との同時実施は、具体的にどのような点で困難なのか。

→住宅・土地統計調査は統計主管課、住生活総合調査は住宅主管課が主体であるため、調査が二系統となり、例えば、世帯からの質問窓口が錯綜したり、調査員への対応に混乱を来すこととなり、調査に対する信頼を損なうことにつながる。また、同時実施により、統計主管課の事務が増大し、限られた人員での対応が困難になるとともに、基幹統計である住宅・土地統計調査の円滑な実施が損なわれ、結果精度の悪化を招くことも懸念される。試験調査を実施した都府県や市町からも、上記理由で同時実施は困難であるとの意見が多数あった。

・震災地域における民間賃貸住宅等の借り上げによる仮設住宅は、どのように把握できるのか。

→把握に当たっては、公営の住宅に居住しており家賃が 0 円である住宅をもって類推することはできるかもしれない。また、行政資料に基づいて把握する方法も考えられるが、自治体の事務負担は増加する。

・「平成 21 年 1 月以降の住宅の増改築 改修工事等」の「東日本大震災被災箇所の改修工事を含む」について、「・・・を含む」という選択肢は、他の選択肢の「〇〇工事」との並列標記に違和感がある。記入者も戸惑うと思う。

→試験調査後に追加した選択肢であるため、試験調査での記入状況は把握できていないが、次回研究会までに、世帯がより理解しやすいような文言や誘導等を検討する。

- ・「市郡等」に含まれるのが市、郡、支庁と振興局のみであれば、支庁と振興局も記載してはどうか。また、畳数に係る調査事項は、本来は洋間も畳数に換算して記入しなければならないが、「畳数」という表記だと洋間は含まないと誤解されやすい。

→調査票上の表記については、再度、世帯の理解しやすさの観点から文言等を精査する。

(2) 集計事項について

- ・「平成21年1月以降の住宅の増改築 改修工事等」の「東日本大震災被災箇所の改修工事を含む」は、なぜ持ち家のみを集計なのか。借家について、二次利用等で集計することは可能か。
→借家については、調査において把握していないので集計することはできない。借家については、借主ではなくオーナーが修理等を行うと考えられ、また、入居時以前の工事状況は借主では分からないので、改修工事の実態把握は困難だと考えている。
- ・「家計を主に支える者」に関する集計において、夫婦共働き世帯では、家計を主に支える者をどちらにするかは世帯の解釈によって異なるのではないか。また、世帯主との違いも含め、今後、集計に必要な世帯情報について、中長期的に検討した方がよい。
→「家計を主に支える者」については、「その世帯の家計の主たる収入を得ている人」と定義している。住宅事項とのクロス集計において必要な世帯情報については、調査実施上の問題と併せ、今後中長期的に検討していきたい。
- ・台所の型と居室数に係る結果表については、家族類型等の世帯属性とのクロス集計も必要ではないか。当該事項のみならず、住宅とそこに居住している世帯とのクロス集計は、居住状況や住生活事情を捉えるために有益だと考える。本体集計での作成が困難であれば、追加集計での依頼も視野に入れている。
→御意見を踏まえて、検討したい。
- ・「保育所までの距離」は、どのように調査しているのか。また、建物調査票の調査事項については、どのように世帯調査票と連携させているのか。
→「保育所までの距離」は、調査（票）により把握しているのではなく、調査対象の調査区の地域情報の一つとして整備している。また、建物調査票と世帯調査票は、それぞれ共通の建物番号と住宅番号を用いて作成しているので、当該番号で連携させている。

(3) その他

- ・調査票において、居室の調査事項の注記にある「食事室兼台所（ダイニング・キッチン）」の表記は分かりづらい。「ダイニング・キッチン（DK）」の方が理解しやすいのではないか。
→次回までに検討する。
- ・面積の調査事項について、なぜ畳数だけ小数点が必要なのか。
→過去からの継続であるが、小数点以下を把握しない方法も再度検討したい。
- ・二次利用申請は手続きが煩雑なので、できれば追加集計（募集）を行ってほしい。
→現在のところ未定であるが、前向きに検討したい。
- ・試験調査の結果はいつごろ出力するのか、概要だけでも事前に教えてほしい。
→第6回研究会において報告予定であり、それまでには作成する。研究会前には配付したい。

6 その他

次回研究会は9月25日（火）に開催する予定とし、詳細は別途事務局から連絡することになった。

<文責：事務局（今後、修正することがあり得ます。）>

以 上